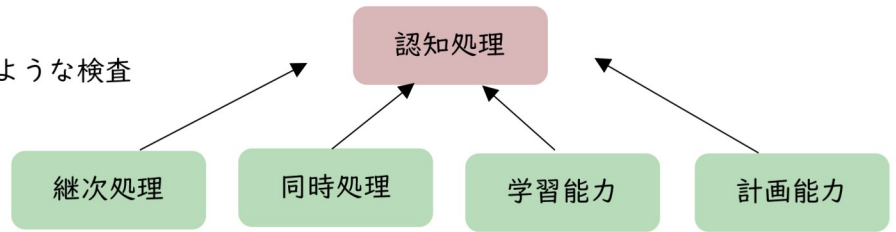


【KABC-II】

- 認知、言語・コミュニケーションのアセスメント
  - ・18歳11ヵ月まで検査可能
- ◎学力を含んだ学習面・教育に生かせるような検査



○継次処理と同時処理

	継次処理 ⇒順序通りに1つずつ理解	同時処理 ⇒全体を捉えてから細部を理解
“アイス”の言葉の理解	「あいうえおの“あ”、あいうえおの“い”、さしすせその“す”」	「アイス。あ、い、す」
拗音の理解	「しや」と「しゃ」の音の違いに気付かせる。	絵カードを使う+「これは“でんしゃ”だよ」と拗音をまとまりとして捉えさせる。
分数の理解(1/4の場合)	4つのケーキを組み立てると、1個(1ホール)になることに気付かせる。	1個(1ホール)を4つに切ったら、その1つが1/4であることに気付かせる。

○事例：質問に対してまとまりのない答え方になってしまう児

- ・認知処理の分析から
- ⇒“話したいことをポストイットに1つずつ書いていき、話すべき順番に並び替えていくことで文章を作成する方法”が有効と考えられる。

【新版K式】

○発達のアセスメント(発達検査)

- ・項目が細かい⇒ダウン症など時間をかけて発達していく場合に小さな変化が分かりやすい。
- ・成人まで使用できる。

○発達が気になりつつも、何とかやってこれた。しかし思春期以降に気になることが出てきた…

⇒PARS-TR、CAADIDに加えて、母子手帳だけでなくK式も参考にできる。



○成人まで使用できるが、WISC もとれる年齢…

⇒発達検査をとるうえで、何を知りたいのか、何が最善の利益なのか、よく考える必要がある。

